

もうすぐ夏休みですね。長期の休みに入ると、これまでの生活ペースが変わってきますし、給食がないので昼食のことも考えなくてははいけません。



これってチャンスですよ。

子どもたちが、自分で“食”について考え、調理できるいい機会です。子どもが自立していくためにも、親がすべてやっておくことはありません。むしろ、手を出したい気持ちをグッと抑えて、その年齢にあった「成長のタネ」を、大切に育ててみましょう。

1 これが”子育てのリアル”だ！

先日、3人の幼子がいる友人から、夜、電話がかかってきました

『上の子二人が熱を出したから、仕事を休まなくちゃいけないじゃない。もう家の中ぐちゃぐちゃで、テーブルの下には、ごはんが散らばってるし、おもちゃ箱の中には、お菓子やバナナが入っているし、洗濯物やお皿もスゴいことになってる。

そうしたら、帰ってきた夫が言うんだよ。「今日は、何をしていたの!？」って。

だから言ったのよ。ずっと子どもと一緒にいたよ。牛乳こぼしたら着替えさせたし、トイレ行くにもドア開けたまんまでついてくるし、食べやすいもの考えてご飯作ったし、一人が寝ても他の二人がけんかしたりするし。

でも、夕方になって、ようやく熱が下がって笑ってるの見て嬉しかったな。

お給料も出ないし、褒められもしないけど、私は、今日も子育て、頑張ったよ。』



ものすごい迫力で、情景が伝わってきます。自分のことや家のことは二の次で、とにかく、子どものことに最優先で取り組む日々。

自分のことはさておいて、愛情たっぷりに子どもと向き合っている皆さん。とてもステキです。きっと、子どもさんにも伝わっていますよ。

2 親と子の思春期バトル！！

この間まで、お手伝いを頼めば、笑顔で「うん、いいよ」と言っていたのに、気づけば「は？」とイヤな顔をするようになり……。話しかけても反応無し、もう返事すら面倒くさそうで……。

そうかと思えば、言葉も巧みになり、小言が百倍になって返ってくる。しかも、どんどん身体も大きくなっていくので、取っ組み合いもしいに我が身の危険(?)を感じるようになり……。

親にしてみれば、なんともやっかいな“思春期”。
乗り切るコツを、一緒に考えてみましょう。



親の心得

- 一、子ども扱いして小言ばかり言わない → おおらかな気持ちで！
- 一、心地よい声かけは大切 → 返事がなくてもあいさつを欠かさずに！
- 一、ダメなことはきちんと叱る → 自分や周りを傷つけることはしっかりと！
- 一、話すタイミングを考える → 込み入った話は機嫌の良いときに！
- 一、その子の人格や友だちを否定することを言わない → 一人の人間（大人）として接する！
- 一、子どもが話しかけてきたら、共感して聞く → うなづきながら聞いてくれるだけで嬉しい！

～ あとがき ～

我が家の台所の壁には、子どもの字で「今日はお母さんの貸し切り部屋です。お母さん以外、入れません」って書かれたボロボロの紙が貼ってあります。

これは何かというと……。長男が小学校低学年の頃、私が発熱して寝込んだことがありました。その時、長男が自分で広告の裏に書いて、ドアに貼りつけてくれたものです。私を「ゆっくり寝かせてやろう」と考えたのでしょう。おそらく、お兄ちゃんとして、弟の面倒を見てくれたりしたんだらうなと思います。実際、私自身は熱に苦しんでいたもので状況は分かりません。

それでも、なんだか、この広告に書かれたものこそが、“本当に純粋でキレイなもの”の様な気がして、ボロボロになっても、捨てられないんですよね……。

そこで、今月オススメする絵本は「おおきくなるって
いうことは」です。

